

会誌「電力土木」投稿論文の手引き

(社)電力土木技術協会 編集委員会

1. 投稿原稿

1. 1 投稿原稿の区分

論文(報告は査読対象としない)

1. 2 原稿の具備すべき条件

- ・正確であること
- ・客観的に記述されていること
- ・内容・記述について十分な推敲がされていること
- ・未発表であること
- ・他学会誌等へ二重に投稿していないこと

1. 3 原稿のまとめ方

- ・目的を明示するとともに、重点がどこにあるかが容易に分かるように記述する。
- ・既往の研究・技術との関連を明らかにする。従来の研究・技術のどの部分を発展させたのか、どのような点がユニークなのかを示す。
- ・原稿は要点をよくしぼり、簡潔に記述すること。
例) 目的→方法→結果と考察→結論
- ・論文の表題は簡潔で、その内容を十分に明らかに表現すること。原則30文字以内

1. 4 要旨およびキーワードについて

- ・要旨を和文と英文の両方の言語で簡潔にまとめ、所定の場所につけること。
- ・内容を十分に表すキーワードを各10文字以内で、3～5個選んで所定の箇所に記入すること。

2. 査読

2. 1 査読の目的

投稿論文が会誌「電力土木」に掲載される原稿として、ふさわしいものであるかどうかを判定するために査読を行う。査読に従って見出された疑義や不明な事項について著者に修正を求める意見があれば述べるものとする。この場合、修正依頼をしてから4ヶ月以内に著者から回答が無い場合には、編集委員会は査読を打ち切る。

2. 2 査読員

査読は編集委員会の指名した3名の査読員が行う。3名の査読員のうち、原則として2名はあらかじめ委嘱された査読員の中から選ぶものとする

2. 3 査読の方法

2. 3. 1 評価

査読にあたり、投稿原稿がその分野においていかなる位置づけにあるか、研究・技術・成果の貢献度が大きいかなど、等の点について、以下の項目に照らして客観的に評価する。

(1)新規性: 内容が公知・既発表または既知のことから容易に導き得るものではないこと。たとえば以下に示すような事項に該当する場合は新規性があると評価される。

- a) 主題、内容、手法に独創性がある。
- b) 学界、社会に重要な問題を提起している。
- c) 現象の解明に大きく貢献している。
- d) 創意工夫に満ちた計画、設計、工事等について貴重な技術的検討、経験が提示されている。
- e) 困難な研究・技術的検討をなしとげた貴重な成果が盛られている
- f) 時宜を得た主題について総合的に整理し、新しい知見と見解を提示している。

(2)有用性: 内容が工学上,その他実用上何らかの意味で価値があること。たとえば, 以下に示すような事項に該当する場合は有効性があると評価される。

- a) 主題、内容が時宜を得て有用である。
- b) 研究・技術の成果の応用性、有用性、発展性が大きい。
- c) 研究・技術の成果が有用な情報を与えている。
- d) 該当分野での研究・技術のすぐれた体系化をはかり、将来の展望を与えている。
- e) 研究・技術の成果は実務にとり入れられる価値を持っている。
- f) 本原稿を掲載することは会員および読者に益するところが大きい。
- g) 今後の実験、調査、計画、設計、工事に取り入れる価値がある。
- h) 問題の提起、試論またはそれに対する意見として有用である。
- i) 実験、実測のデータで研究、工事等の参考として寄与する。
- j) 新しい数表、図表で応用に便利である。

(3)完成度: 内容が簡潔、明瞭に記述されていること。

本論の展開が読者に理解できるように記述されているかについて評価する。ただし、著しい厳密さ、正確さ、完璧さ、格調の高さ等は必要としないが、次のような点については留意して評価する。

- a) 全体の構成が適切か。
- b) 目的と結果が明確か。
- c) 既往の研究・技術との関連性は明確か。
- d) 文章表現は適切か。
- e) 図・表はわかりやすく作られているか。
- f) 全体的に冗長になっていないか。
- g) 図・表等の数は適切か。

(4)信頼度: 内容に重大な誤りがなく、また読者から見ても信用のおけるものであること。また、次のような点についても留意して客観的に評価する。

- a) 重要な文献が落ちなく引用され、公平に評価されているか。
- b) 従来からの技術や研究成果との比較や評価がなされ、適正な結論が導かれているか。
- c) 実験や解析の条件が明確に記述されているか。

2.3.2 判定

各査読員は、2.3.1での各項の評価と、既に掲載された論文を参考にして、水準以上であれば、掲載「可」とし、掲載するほどの内容を含まないと考える場合および掲載すべきでない場合「否」とする。ただし、2.3.1での各項の評価のうち、1つでも問題ありと評価されても「否」と判定されるものではなく、多少の疑義、疑問な点があっても学術

や技術の発展に寄与する内容があるものは掲載されるように配慮する。

掲載可の場合、修正の必要性の有無と程度により、次の分類を行う。

- A：修正がなく掲載してよい。
- B：少しの修正があるが掲載してよい。
- C：かなりの修正を行った上で掲載してよい。
- D：基本的な修正があり再査読が必要とされる。

2. 3. 3 修正意見についての注意

原稿の内容についての責任はすべて著者がもつものであることを念頭におき、必要な場合には以下の事項に注意して修正意見を述べるものとする。

(1) 新たな計算や実験を追加させることは極力避けるものとする。

(2) 査読員の主観的な意見や好みを主張して、原稿の構成を大幅に変えることを要求したり、投稿者が査読員と見解を異にする点について修正を要求することは避ける。

(3) 査読員は、投稿者に対し研究を指導する立場にはないことに留意する。ただし、明らかに査読員の意見、指摘によって原稿の内容が向上すると思われる場合には、その意見、指摘を述べてもよい。

2. 3. 4 査読期間

投稿された研究・技術成果ができるだけ早く会員に公表できるように、査読は原則として5ヶ月以内に終わらせるものとする。

2. 3. 5 再査読

編集委員会は、査読指摘事項に対する著者回答に再査読が必要か否かを判断し、必要な場合は査読を行った査読員に再査読を依頼する。

3. 原稿提出先 電力土木技術協会

4. 原稿提出期日 随時

5. 投稿論文手引きの実施

この手引きが対象となる論文は平成13年7月号からとする。

以上